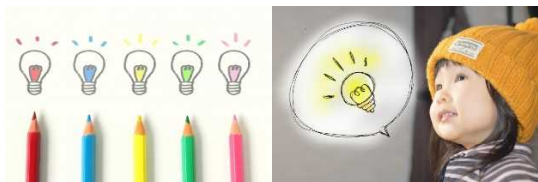


ピッと来たら、パッと行動 79



学生時代に、数学のテストを受けている時、問題を読んだ後に、頭の中に解決のアイデアがピッとひらめくことがありました。こんな経験は、誰でもあることだと思います。頭の中のコンピュータが働き、解決のアイデアを考え出したのです。その後パッと問題を解くことができました。

仕事の事で、大きな課題があつて、悩んでいた時に、お風呂の中でそのことを考えていたら、ピッと解決方法を思いついたことがありました。翌朝すぐに、職場に行き、パッと課題を解決することができました。

家を建てるための土地を決めるのに、どちらの土地を選択するか悩んでいた時、ピッときた方を選択し、パッと購入するよう行動したら、とても良い土地でした。

朝ドラ「まんぷく」の主人公(夫)が、食事の時に、妻との会話の中から、新しい商品(家庭で簡単に食べられるラーメン)の開発をピッと思いついたのです。その後、主人公(夫)は、パッと新しい商品の開発に取り組み出しました。これは、後のインスタントラーメンにつながります。

不思議なもので、人は何かについて、夢中になって考えていると、ある時ピッと頭の中に思いつくことがあります。このことを第六感とか、直感とか言ったりしますが、自分自身の心の声でもあります。そして、**そのピッと来たことに、パッと行動すると、不思議なもので、何事も上手くいきます。**良く気がつく人などは、ピッと来て、パッと行動できる人なのかもしれません。

どんな小さな事でも構いません。ピッと来たら、パッと行動してみてください。そして、その積み重ねが、やがて夢や成功への実現につながっていきます。



今日できることは今日中に 103



幸せな人は、今日を精一杯・大切に生きています。過去や未来に思いをはせながら、今日を生きているわけではありません。過去から繋がって来た今日を、精一杯・大切に生きています。その事が未来に繋がっていくことを、知っています。だからこそ、今日を精一杯・大切に生きています。

今日やることは、これぐらいやっつけばいいや。明日も時間があるから、今日しなくて、明日しよう。これは、難しそうだから、今日は無理だ。このように時々思ったりしませんか。それでは、今日を精一杯・大切に生きているとは、言えないでしょう。

では、どうすればいいのでしょうか。それは、あなたの今日一日の使命・役割を、必ず今日中にすることです。つまり、**今日できることは、必ず今日中にすることです**。それが、今日を精一杯・大切に生きることなのです。具体的にどうするのかを紹介します。

- ☆ 今日できることを、朝、頭の中に思い描く
- ☆ そのための計画を立て、時間を確保する
- ☆ 計画に従って、確実に処理をする
- ☆ 必要に応じて、工夫したり、協力を得ながら進める
- ☆ きついこと・難しいことから逃げず、挑戦する
- ☆ 今日中に、最後までできたか確認する

今日を精一杯・大切に生きることが、毎日当たり前にできるようになると、スピード・パワーがつき、チャンスが広がります。きっと思い描く未来へと道が切り開かれていくことでしょう。



行動が願いを叶える 178



多くの人が、願いを持っています。
その願いを叶えるために必要なことは、何でしょうか。

願いを心の中に秘めているだけでは、願いは叶いません。
願いを言葉に出して言うだけでは、願いは叶いません。

自分の仕事の技術を高めることが、あなたの願いだとします。
そのためには、次のことが必要です。

- アイデアを工夫し、技術を試す。
- いろいろなことを経験する。
- 高い技術を真似て、やってみる。

友だちをたくさん作ることが、あなたの願いだとします。

- 友だちに会い、いろいろな人を紹介してもらう。
- いろいろな集まり、サークル、イベントに参加する。
- 出会った人と楽しく話をする。

このように、願いを叶えるためには、あなた自身の行動が必要です。
頭の中だけでは、願いが叶いません。
勇気を出して、一歩踏み出して、行動しましょう。

あなたの積極的な行動が、あなたの願いを必ず引き寄せてくれるでしょう。



自分の目で直接確かめよう 181



日常生活や仕事において、どちらがいいか判断したり、どうするかを判断したりします。そんな時、人からの話をそのまま信じて、判断したり、人の判断を頼りに、判断したりする人がいます。

それで、正しい判断、適切な判断が、できるのでしょうか。

中古の家を購入する時に、販売店の言うことをそのまま聞いて、購入することはしないでしょ。おそらく実際の家を見学に行き、詳しく家の内外の様子を見たりします。そうするとどれくらい古くなっているのか、修理力所はないのか、住みやすい造りになっているのかなど、具体的に分かることが、たくさんあります。このように自分の目で直接確かめて、購入するかどうかを判断すれば、住む人の側に立った、良い判断ができるでしょう。

学校でいじめがあり、先生方からだけの話で、生徒に処分を下すことは、しないでしょ。おそらくいじめに関係した生徒から、直接話を聞きます。そうするとどうしていじめになったのか、生徒がどのような行動をしたのか、どの程度いじめの継続があったのかなど、具体的に理解できることがたくさんあります。このように自分の目と耳で直接確かめて、生徒をどう処分するか判断すれば、生徒の側に立った、良い判断ができるでしょう。

判断する時は、必ず自分の目で、直接確かめることが、大変重要です。
面倒で時間がないと言う人もいます。
そう言う人にこそ、日常生活や仕事において、現場を大切にす気持ち、持って欲しいと思います。

ぜひ自分の目で、現場を直接確かめて、判断するように心がけたいものです。



チャンスは今、行動せよ 192



あなたは、チャンスに関して、どのタイプの人ですか。

- チャンスがあっても、全くそのことに気がつかない人
- チャンスに気がついて、自分には関係ないと思い、知らないふりをする人
- チャンスに気がついたら、行動しようと思うが、なかなか行動まではいかない人
- チャンスがあることに気がついたら、自分から積極的に行動する人

チャンスがあることに気がついたら、自分から積極的に行動する人が、チャンスを生かすことができます。

チャンスは、はじめは皆に与えられます。
それを生かすか、生かさないかは、あなた次第です。

長い人生において、チャンスに気づかなかつたり、チャンスを生かそうとしない人には、チャンスは、なかなか巡ってこなくなります。
チャンスを生かす人には、次から次へとチャンスが舞い込んできます。
チャンスが多く、生かす人が、自分の人生が、より豊かなものとなります。

- ☆ チャンスが来ていることに、すぐに気づきましょう
- ☆ 気づいたら、どうしたらチャンスを生かせるか、考えましょう
- ☆ チャンスを生かせるように、直ちに行動しましょう

このことを実行すれば、チャンスを生かすことができます。
チャンスは、早い者勝ちです。
早く行動を起こした人が、チャンスを生かすことができます。

**まさにチャンスは、スピード勝負です。
チャンスは今と、的確に判断し、素早く行動しましょう。**

絶対今を、逃さないで下さい。



行動力

今からでも遅くはない 196



何かに挑戦しようと思っても、すぐに諦めてしまう人がいます。

- かなりの歳になったので、新しい仕事には、対応できないだろう。
- この歳からもう一度大学に行くのは、無理な話だ。
- 結婚したいけど、適齢期を過ぎてしまったので、結婚相手は見つからないだろう。
- 今から資格を取るのには、今の私の歳では、頭が上手に使えないだろう。

このように自分の歳を、挑戦しない理由にする人が、多いように思います。

しかし、本当にあなたの歳で、挑戦できないのでしょうか。
あなたの歳では、何をすることも無理なののでしょうか。

☆ 85歳の女優・タレントの黒柳徹子さんは、現在もトーク番組「徹子の部屋」を長きに渡り、続けられています。

☆ 77歳のコメディアンのかんざきあつしさんは、現在駒沢大学で、学生として学びを続けられています。

☆ 高齢者ですが、新しい職場で働いている人、新しい趣味をはじめた人、高校・大学で学んでいる人、新しい所に転居した人など、新しいことに挑戦し続けている、多くの人があります。

☆ 私も定年退職後に、しあわせ塾をはじめました。

歳を取ったと気にしているのは、あなたの心です。
あなたが、歳のことを気にしないなら、何歳になってもあなたは、若々しいのです。
高齢者の人の中には、今でも自分は、若いと思っている人が多いです。

**歳を気にして、何かに挑戦しないのは、もったいないことです。
あなたなら、絶対出来ます。**

やりたいことがあれば、今からでも決して遅くはありません。
すぐに挑戦しては、いかがでしょうか。



フットワークを軽く 278



ゴミで散らかった部屋に、ある人を案内し、その部屋で待たせました。
しばらくして、ある人を隣の部屋へ呼びました。
待たせていたゴミの部屋の様子に、特に変化は、ありませんでした。

今度は、ゴミで散らかった部屋に、別の人を案内し、その部屋で待たせました。
同じように、しばらくして、その人を隣の部屋へ呼びました。
待たせていたゴミの部屋の様子に、大きな変化がありました。

それは、部屋のゴミがなくなり、きれいになっていました。
別の方は、部屋にゴミがあるのに気がつき、片付けたのです。

この二人は、どちらが運がいいと思いますか。
ある人は、おそらくゴミに気づいたと思いますが、何もしていませんでした。
別の方は、ゴミに気づき、片付けるという行動がありました。

運がいい人は、行動する人です。
運がいい人は、フットワークが軽いのです。

運は、動きの中にしか、起きません。
運が悪い人は、たいてい動きがなく、停滞している人です。

子どもを育てる言葉に、「気づき、考え、行動する」があります。
気づき、考えだけで終わる人は、運はやってきません。
行動するが伴って、運がやってくるのです。

- ☆ パット行動する。
- ☆ 口より先に行動する。
- ☆ 日頃から運動をして、素早く動けるようにする。
- ☆ 人に出会ったり、旅行に出かけたりして、リズムをつくる。
- ☆ 行動を継続する。

このようなことに、取り組みましょう。
あなたのフットワークが、軽くなります。

自分の行動の中にしか、運は生まれません。



誰であれ人前で自分らしく 291



人は、毎日いろいろな人と接します。
その時、誰であれ人前で自分らしい態度で、接しているでしょうか。

- 弱い子どもには、厳しく接する。
- お世話になっている妻には、優しく接する。
- いつも怒られている上司には、何も言えずに接する。
- 優しい部下には、言いたい放題で接する。
- 怖い人であれば、あまり関わらないように接する。
- 友だちであれば、なれなれしく接する。
- 強い人には、ペコペコして接する。

このように、自分がまるで七変化みたいに、誰であるかによって、接し方がくるくると変わっていないでしょうか。

もしそうであれば、日増しに神経がすり減り、ストレスがたまります。
体も心もくたくたになり、疲れ果ててしまいます。

多くの人は、自分は七変化みたいな接し方をしている、とは思っていません。
しかし、周りの人は、あなたの接し方が変わっていることを、よく理解しているのです。
あなたに、本当のことを知らせないだけです。
そうであれば、あなたに対する信頼は、低いでしょう。

もちろん相手の期待に応えるために、必要に応じて、接し方を変えなければいけない時があります。
そのことは、当然誰でもわかることです。

**さまざまな状況や相手によって、人前で無理に自分を変えるのは、止めましょう。
自分は、自分です。**

**信念を持って、自分の生き方を貫きましょう。
誰であれ人前で自分らしく接し、自分の個性を輝かせましょう。**



三忽三行で積極的に生きる 312



人生を豊かで実り多いものとしたいです。
そのためには、積極的に生きることです。

積極的に生きると、多くのことにチャレンジし、貴重な経験ができます。
人との出会いも多くなり、チャンスにも恵まれます。

積極的に生きるためには、どうしたらいいのでしょうか。
中村天風の教え、三忽三行(さんこつさんぎょう)を紹介します。

常に積極的であるための三つの戒め

- ☆ 怒らず
- ☆ 恐れず
- ☆ 悲しまず

この三つで、感情に溺れないようにしましょう。

積極的にあるために行うべきこと、奨励すべきことの三つの行

- ☆ 正直
- ☆ 親切
- ☆ 愉快

この三つの行を行動することが、積極的な心を保ちます。

次に、三忽三行を盛り込んだ誓いの詞を紹介します。

誓いの詞

今日一日
怒らず 恐れず 悲しまず、
正直、親切、愉快に、
力と 勇気と 信念とをもって
自己の人生に対する責務を果たし、
恒に平和と愛とを失わざる
立派な人間として生きることを、
厳かに誓います。

誓いの詞を唱えるようにしましょう。
必ずや立派な人間として、積極的に生きることができます。

考えずにまず行動しよう 403



諺に「思い立ったが吉日」という言葉があります。

諺の意味は、何かをしようと決意したら、そう思った日を吉日としてすぐに取りかかるのが良いということです。

つまり、何か物事を始めようと思ったら、日を選ばずにただちに着手するのが良い、という教えです。

何かを始めようとする時に、あれこれと考え、準備や構想を十分にしておいて、始めるのが本当は良いのかもしれませんが。

しかしそれでは、始めるまでに、かなりの時間がかかってしまいます。

たくさんの課題や困難が見えてきます。

時間が経てば経つほど、意欲が薄らいでいきます。

せっかく始めようとしていたことが、とうとう何もできずに終わってしまいます。

思い立ったその時が、一番大きなチャンスなのです。

私が好きな言葉に、「やってやれないことはない。やらずにできるわけがない」があります。

必ずやれるという強い意志を示しています。

何事もできるためには、やらなければならないのです。

まず行動しなければ、今までと何も変わりません。

行動しなければ、達成や成果を得ることは、できません。

何も考えずにまず行動を、起こしましょう。

行動こそが、とても重要なのです。

朝ドラ(なつぞら)の主人のなつは、アニメーターの道を目指して、北海道から上京しました。

凄い決心をして、夢のために、まず行動したのです。

試験に数回落ちましたが、決して挫けることなく、努力を重ねていきました。

多くの人の応援もあり、見事アニメーターになることができました。

思い立ってすぐ行動すると、行動に力があります。

力があると、上手く進むことができます。

そして、行動しながら、知恵を使って考えればいいのです。

失敗なんかを気にしないで、いいのです。

失敗しても、何も失うことはないのです。

きっと多くの人や神様が、あなたを応援してくれることでしょう。



今できることを精一杯しよう 474



未来に夢見る人がいます。

- 会社の社長になったら、みんなの給料を上げたい。
- お金持ちになったら、社会のために多くの寄付をしたい。
- 結婚できたら、部屋・家をきれいにして、快適な空間を作りたい。
- 今の自分より偉くなったら、自分がしたい仕事をしたい。

このような夢を持つ人がいることでしょう。

それは、素晴らしいことだと思います。

しかし、その夢の実現のためにも、ぜひ今できることを大切にしましょう。

中国に「オウムと天帝」という昔話があります。

ある時、オウムが住んでいた山で、火事が起こりました。

山には、オウムの仲間の生き物たちがたくさん住んでいました。

オウムは、自分の仲間を救いたいと、湖に入って羽を濡らし、火事の現場の上空まで飛んでいくと、必死に羽ばたいて水を振りかけました。

その様子を見ていた天帝が、「なんてオウムは愚かなんだろう。羽から落とす、わずかな水で、山火事を消すことなど不可能だろう」と思いました。

すると天の神様が、けなげな努力を続けているオウムを哀れに思って、大雨を降らせました。

すると山火事は、たちまち消えました。

この話は、「今自分ができることを、とにかく精一杯努力していれば、やがてチャンスはやってくる」という人生の教訓を示しています。

小説家の武者小路実篤は、「自分の力にあうことだけしろ。その他のことは自ずと、道が開けるまで待て。」と名言を残しています。

夢の実現のために、あせらず、無理せずに、今の自分ができることを一步一步確実にやっていけば、多くの人があなたの味方をして、成功へと近づいていくのです。



寄り道を進んでしよう 562



寄り道を進んでしよう、と言うとおかしく思われるかもしれません。
寄り道なんていけないことです、と言われるかもしれません。

私が小さい頃は、家に帰るまで、よく寄り道をしていました。

- 友だちの家に行き、友だちとゲームをして遊んでいました。
- 近くの川に行き、川の中に入りザリガニや魚を追いかけていました。
- 公園に行き、紙芝居をタダで、見ていました。

このような寄り道をして、親に心配をかけていましたが、ドキドキワクワクで、楽しかった思い出ばかりです。

今の時代の親であれば、寄り道をする子は、許されないかもしれません。

不審者等いて、不安なのかもしれません。

しかし、この寄り道で、多くのことを学んでいたように思います。

大人でも、仕事が終われば、すぐに家に帰らず、職場仲間と居酒屋に寄り道をする人がいます。
居酒屋で、楽しく語り合い、心を癒したりします。

私の家族は、旅行する時に、目的地のホテルに行くまでに、たくさん寄り道をします。

- 特産品を販売している道の駅があれば、寄り道をして買い物を楽しみます。
- 景色のいいところがあれば、寄り道して、車から出て眺めたり、写真をとったりします。
- 美味しそうなレストランがあれば、寄り道して、美味しい料理を食べます。

このような、寄り道こそが、旅行を充実したものにしてくれるのです。

寄り道することは、決して無駄なことではありません。

☆ 寄り道で、楽しさが増してきます。

☆ 寄り道で、心のゆとりが生まれます。

☆ 寄り道で、心が磨かれてきます。

寄り道をしない人生は、真面目すぎて面白くないでしょう。

寄り道を進んでして、人生を豊かにしていきましょう。



大事なことは自分でしよう 661



何でも他人に任せる人がいます。自分でしようとせず、他人にしてもらうのです。もちろん他人を信頼して任せることは、必要なことです。組織が大きくなると、ほかの人と連携して、仕事を進めなければなりません。出世して重要な役になるにつれて、部下に仕事を任せなければ、大きな仕事はできません。しかし、何でも他人に任せればいいとは、いけないものです。他人に任せていいこと、これは自分がしなければいけないことなど、その場その場で、適切な判断が必要です。

ここで、「だまされた鳥の大王(モンゴルの昔話)」を紹介します。

それはそれは恐ろしい鳥の大王が、山奥に住んでいました。

ある日、鳥の大王は、ツバメと蚊を呼びつけて、こう命じました。

「世界で一番うまいのは何の肉か、一週間以内に調べてまいれ」

恐ろしい大王の命令とあって、ツバメと蚊は、すぐさま飛び立っていきました。

ツバメはスイスイ飛んで、動物を探すのは早いのですが、うまく味見ができません。

馬のお尻をつまもうとしたら、蹴られて、ひどい目に遭ってしまいました。

一方、蚊の方は、チクリ、チクリと刺しては味見をするものの、とても一週間では世界を回りきれません。

あっという間に期限がきて、大王に報告に帰らなければならないという日、蚊がツバメにいいました。

「馬、トラ、ヘビ、クマと味見をしてきたが、今のところ一番うまかったのはトラだ。でも、世界にはもっとうまい物があるかもしれない。大王にどう報告しよう」

するとツバメは、こう提案しました。

「もし、トラの肉が一番うまいと報告して、大王からトラの肉を持ってこいといわれたら大変だ。トラを探すのも大変だし、だいいち僕たちの方がトラに食い殺されてしまう。だから山奥にたくさんいるヘビにしておこう」

こう相談がまとまり、鳥の大王には一番うまいのはヘビだと報告しました。

ウソとも知らず、鳥の大王は、その日からヘビばかり食べるようになりました。

そして、あるとき、毒ヘビを食べようとしたところ、噛まれて死にそうになり、以来、身体が麻痺して思うように動けなくなりました。

そのため別の鳥に大王の座を奪われてしまったのです。

だまされた鳥の大王は、ツバメと蚊に任せず、自分で調べれば、別の鳥に大王の座を奪われることはなかったのです。

何でも人任せにすると、不快な思いをするなどして、痛手を負ったり、運を逃がしてしまうことがあるのです。

☆ ある本を購入してくれと頼んだら、似たようなタイトルの本を購入してきた。

☆ 商談の時間を伝えるように頼んだら、間違った時間を伝えていた。

☆ A4でコピーを取るように頼んだら、B4でコピーを取ってしまった。

☆ 最新の見積書を取引先に送るように頼んだら、誤って古い見積書を送ってしまった。

☆ 忘年会の予約を頼んだら、似た名前の店に予約してしまった。

このようなことが起こると、その責任は当然頼んだ方が、負わなければなりません。

だったら、必要以上に他人任せにしないで、大事なことは自分でするようにしましょう。

自分でできる大事なことは、人に頼らないで、自分で行うようにすれば、全て上手くいき、運を逃がすことはないのです。

他人に任せること、自分で行うべきことの判断を、的確にできるようになりましょう。

相手の状況を理解して行動しよう 671



相手の状況をしっかりと理解して、的確に行動することが苦手な人がいます。

若い会社員Aさんは、昔から「空気が読めない」と言われてきました。

Aさんは、会議に遅れてきた部長が、恥ずかしそうに会議室に入るのを見ました。

そこで、Aさんは、「部長、三分遅刻ですよ」と事実を伝えました。

すると部長からイヤな顔をされ、会議後に注意を受けました。

部長は、遅れて申し訳なく思い、恥ずかしそうに会議室に入ったのです。

そうであるならば、Aさんは部長が恥をかかないように、静かに黙っていると、「そんなに待っていませんから、心配しないでください」と言った方が、部長が喜ぶと思います。

相手の状況を理解して行動するためには、相手の立場に立って考えてみる想像力が重要です。

ここで、「困った息子(日本の昔話)」を紹介します。

昔、あるところに世間知らずの困った息子がいました。

あるとき、息子が木に登っていたら、お葬式の行列が通りましたが、息子は、この上でそれを眺めているだけだったので、親が飛んできて叱りつけました。

「こらっ、お葬式が通るときは、木から下りて南無阿弥陀仏と拝むものだぞ」

次の日も、息子が木に登っていると、今度は嫁入りの行列が通りました。

すると、息子は木から下りて、「南無阿弥陀仏」と拝んだのです。

その様子を見ていた親が飛んできて、今度はこう叱りつけました。

「バカたれ。南無阿弥陀仏と拝むのは葬式のときだ。嫁入りの行列のときは、おめでたい歌でも歌うもんじゃ」

その次の日、息子は町に行きました。

町では火事があって、大勢の人が騒いでいます。

これは、おめでたいことだろうと思った息子が、おめでたい歌を歌うと、「火事におめでたい歌など歌うもんでねえ。家をなくした人の身にもなれ」と、町の人たちからこっぴどく叱られ、棒でたたかれてしまいました。

家に帰ってその話をすると、「そういうときには、水の一杯もかけてやるもんだ」と親から叱られました。

次の日も町に出かけた息子が、鍛冶屋の前を通りかかると、鍛冶屋が火をおこし、鉄を溶かしていました。

息子が火事だと思って水をかけると、鍛冶屋は怒って追いかけてきました。

逃げ帰った息子が、親にそれを話すと、「そういうときは、たたいて手伝うもんだ」とまた叱られました。

次の日、息子が町に行くと、酔っ払い同士が棒を振り上げケンカをしていました。

これを見た息子は、仕事をしていると思い、棒で酔っ払いたちをたたいたところ、逆に酔っ払いたちから袋だたきに遭い、とうとう体中がコブだらけになってしまいました。

この話は、困った息子の行いを通して、「TPO(時、場所、場合)をわきまえない言動をとると手痛い目に遭う」ということを教えています。

つまり常に相手の身になって考えないと、相手を不快な思いにさせてしまうことになるので、いつ、いかなるときも共感能力を身につけ、相手の立場になって考えて行動する必要があるのです。

「自分があの人と同じ立場だったら、どう考えるだろうか」

「あの人と同じ境遇にいたら、どうしてもらおうと嬉しいか、助かるか」

このように相手の立場に自分の身を置いて想像することで、状況を理解し、的確な行動をすれば、みんなから喜ばれる人になれるのです。

いったん口にしたことは実行しよう 672



断行

いったん口にしたことを、実行しようとしていない人がいます。

忘れてしまった人、はじめから口だけの人、覚えているのに平気で無視する人がいます。

○ 来月になったらいっしょに食事をしましょう。こちらから連絡をします。

(待っても連絡がない)

○ 今回は出席できませんが、次回の勉強会には必ず出席します。

(次回の勉強会にも出席しない)

○ 忘年会には、時間が少し遅くなっても参加します。

(参加も欠席の連絡もない)

いったん口にしたことを実行しないと、多くの人に迷惑をかけことになります。

ここで、「幽霊となって現れた友だち(ベトナムの昔話)」を紹介します。

ある村にポタという男がいました。

ポタは、薬草作りの名人で、それをつかって人々の病気を治してあげていました。

ある日のこと、ジョイという一人の兵士がこの村を訪れたのですが、長旅で体が弱って、池のそばをやっとのことで歩いていました。

池にはスイレンが美しく咲いていました。

そして、ちょうど池のスイレンを見にやって来ていたポタの目の前で、ジョイは倒れてしまったのです。

そこでポタは、薬草を飲ませて、介抱してあげると、ジョイはみるみる元気になりました。

ジョイは、ポタの親切に大変感動し、二人はとても仲良くなりました。

しかし、別れの時はすぐに訪れました。

ジョイは旅の途中で、遠く離れてた場所に行かなければならなかったからです。

「ボクは用事をすませ、一年後、またこの村にやってきます。そうしたら、あの池に咲くスイレンと一緒に見ましょう」

こう約束して、旅立っていったのです。

それから一年が過ぎ、ジョイとの再会を果たそうと、ポタは毎日のように池に行ったのですが、なかなかジョイはやってきません。

そんなある日のこと、ポタが池に行ってみると、とうとうジョイがやって来ました。

二人は、ようやく再会できたのですが、ジョイの様子がおかしいので、問いただしてみると、ジョイはこういいました。

「ボクは、敵に捕まって、ずっと監禁されていて、とうとう処刑されてしまいました。あなたとの約束を守るために、死んで幽霊となって、ここにやって来たのです」

それを聞いたポタは、ボロボロと涙を流し、ジョイの供養をしたのです。

この話は、約束を守るという行為は、他人を尊重する上で、ものすごく大切なことを教えています。

「私はあなたのことを、いつも大切に思っています」

「あなたに対して私は、いつも誠実です」

このようなメッセージを、送ることになるのです。

普段からいったん口に出したことは、実行するクセをつけましょう。

他人から信用されるようになり、自分の愛他心も強まります。

怖くても決して逃げない勇気 715



何か行動をしようとする時に、必要なものがあります。

それは、「勇気」です。

勇気とは、普通の人々が、恐怖、不安、躊躇、あるいは恥ずかしいなどと感じる事を、恐れずに（自分の信念を貫き）向かっていく積極的で強い心意気のこと、勇ましい強い心を言います。

名作『ライムライト』の中で、チャップリンは、自身の人生を振り返るように、こう語っています。

「人生に必要なのは、勇気と想像力と、ほんの少しのお金」

チャップリンが言うように、人生において、勇気が大きな力を発揮するのです。

ここで、学びの一步（令和童蒙読本）の「本当の勇気」を紹介します。

二人の子どもがいた。

一人の名はトラと言ひ、もう一人はクマと言った。

ある日、二人で学校から帰る途中、街中を歩いていた。

トラが、「あそこでケンカしているよ。行って見てみようよ。」と言うとクマは、「僕には関係ないよ。早く家に帰ろう。」と言った。

するとトラは、「君は臆病だから、あそこに行くのが怖いんだ。君が行かないのなら、僕は一人で見に行くよ。」と言って、走って行った。

クマは真っ直ぐに家に帰り、午後またいつものように学校に出かけた。

まもなくトラも学校に出てきたが、多くの子どもたちの前で、クマが臆病だという話をし、みんなでクマのことをバカにしてからかった。

それでもクマは、本当の勇気というのは、自分の行いをつつしみ戒めることだと学んでいた。少しも怒った様子を見せなかった。

二、三日して、トラは六、七人の友だちと川で遊んでいたが、川の中ほどで溺れてしまい、「助けてくれ」と叫んだ。

その時、クマのことを臆病者とバカにしていた子どもたちは、トラを助けることができず、岸の上からただ眺めているだけだった。

トラはますます危なくなつて、今にも沈もうとしていた。

ちょうどクマがここを通り過ぎ、この様子を見てたいそう驚き、急いで服を脱ぎ捨てるや、川に飛び込んでトラの手を取り、やっとのことで岸に上げて、トラの命を救うことができた。

トラと他の子どもたちは、クマを臆病者と呼んだことを恥じ、その後はクマを学校で一番の勇者と呼んで、みんなもクマのことを尊敬した。

こういうことから、クマのような行いこそ、真の勇者と呼ぶのである。

クマの命がけの行為は、本当の勇気なのです。

怖くても決して逃げない勇気なのです。

誰でも勇気を持っています。

その勇気をクマの勇気のように、どんな時も逃げないで強く立ち向かっていける、強い勇気に高めていきたいものです。

困難でも自ら飛び込もう 727



車を運転していたら、渋滞で車が、まったく進まなくなりました。どうしたのかなと思って、車のずっと先を見てみると、二台の車が正面衝突して、交通事故が起きていました。

車の周りの様子を見ましたが、その事故車に、誰も近寄ろうとはしていない様子でした。大きな事故後の処理は、困難で誰もやりたくないのだろうと察したので、車をその場において、二台の事故車の所まで、走って行きました。

二台の事故車のうち一台に乗っていた二人は、たくさんの血を流して、命に危険がある状態でした。

そこで、二人を励ますとともに、急いで携帯電話で救急車を呼び、大きな病院へ搬送しました。

私は、現場に残り事故処理等をすべて終わらせて、車で病院にかけつけました。

病院では、すぐに二人の手術が始まり、二人とも大怪我でしたが、命はなんとか助かりました。

私が助けるのが少しでも遅れていたら、助からなかったかもしれません。

困難でも自ら飛び込んだことが、命を救うことになったのです。

ここで、台湾に古くから伝わる民話を紹介します。

昔、ある村では農民たちが楽しそうに、暮らしていました。

そんな農民たちを見て、イタズラ心に火がついたのでしょう。

台風的神様が、農民たちに嫌がらせをしようと、大きな台風を起こして、農民たち目がけて押し寄せてきました。

農民たちは、一目散に逃げ出しましたが、逃げれば逃げるほど、大きな台風は、後を追ってきます。

その時、村の勇気がある若者が、村人たちにこう言いました。

「逃げるのをやめて、台風の中に飛び込んでいこう」

その言葉に従ったところ、村人たちは、全員無事に生き延びることができました。

台風の中に飛び込み、さらに台風の進路の反対側に突き進むことで、難を逃れることができたからです。

これには、台風的神様も「まいった」と言って、脱帽してしまいました。

人生も同じで、「これは困難だ」と思うと、逃げることになります。

どんどん逃げると、マイナスの気が大きくなり、恐れが増し、さらに追いかけて来ることになります。

そうならないように、困難でもその中に、自ら勇気を持って、飛び込んでみましょう。

意外とたいしたことがなく、スムーズに物事が進むかもしれません。

困難と自分で思っただけで、自分の気持ちの弱さに、原因があったのかもしれない。困難でも自ら飛び込むことで、困難に打ち勝つ強い心と自信を、手に入れることができるのです。

たまには未知の経験をしよう 766



チョコレートが大好きな人でも、毎日食べ続けたら飽きてきます。
たまにはケーキが、食べたくなるでしょう。

ラーメンがどんなに好きでも、毎日食べて続けていたら飽きてきます。
たまにはチャンポンが、食べたくなると思います。

工場で、毎日車の部品製造を続けていたら、飽きてきます。
たまには、違った仕事をしたくなると思います。

このように、毎日同じようなことでは、刺激がなくなります。
刺激がなくなると、しだいに面白くなくなり、マイナスの気が多くなります。

そういう時は思い切って、たまには未知の経験に、チャレンジするといいでしょう。

- ☆経験のない山に、登ってみる
- ☆マリンスポーツに、挑戦してみる
- ☆経験したことのない、仕事をする
- ☆普段乗らない大型船に、乗ってみる
- ☆行ったことのない温泉に、夫婦で行ってみる
- ☆豪華ホテルで、食事をする

このようなことにチャレンジすると、今までに味わったことのない、感動や快感を体験できます。
心がイキイキワクワクして、プラスのエネルギーで溢れます。

元気いっぱいの自分に、なれるのです。



できることから始めよう 771



夢・目標を決めて、行動しようとする時。
その時に、あれこれと考えます。

- 今の仕事が、終わってからがいい
- 情報収集を、十分してからがいい
- 一番いいタイミングが、来てからがいい
- 資金が少し貯まってからがいい
- 協力者が、決まってからがいい

このように考えると、なかなか行動することができなくなります。
待っている間に、情熱がなくなり、夢・目標を諦めてしまうことになります。

目標を決めて行動しようとする時は、必ず何かの行動をするようしましょう。
あまり難しいことを考えるのは、止めましょう。

**最初から大きなことを、しなくていいのです。
まず自分にできることから、始めればいいのです。
まず一歩行動を起こすのです。**

例えば、歴史研究家になりたいと思っていたとします。
そこで、「今の会社を辞めて、大学を受験して、歴史を勉強しよう」と大きなことを考えると、おそらく先に進まないでしょう。

今すぐ始められそうなことから、始めたらいかがでしょうか。

- ☆歴史に関する本を、購入して読む
- ☆休みの日を利用して、文化遺跡・歴史資料館巡りをする
- ☆歴史セミナーに、参加する
- ☆テレビで、歴史番組を見る
- ☆歴史に関して、インターネットで調べる

**このような小さな一歩を、踏み出しましょう。
小さなできることから始めれば、大きな夢・目標に、しだいに近づいてきます。**



よいことを行動で示そう 792



テレビで評論家の言葉を聞いていると、たいへんいいことを話されます。おそらく情報を集めたり、勉強したりして、知識として知っているのです。しかし、よいことでも、知識として知っているだけでは、本当の役には立ちません。

江戸中期の儒学者、貝原益軒（えきけん）の教えに、次の名言があります。

「知って行わざる 知らざるに同じ」

これは、「よいこと、人のためになること」と思っている、実際に行動に移さなければ、「よいこと、人のためになること」を、行ったことにはならないという教えです。知識を行動で示してこそ、本当の価値があるのです。

お釈迦様にまつわるエピソードを紹介します。

あるとき、お釈迦様が弟子たちを連れて町中を歩いていたら、やせこけて今にも死にそうな母子を発見しました。

「可愛そうに・・・」と、お釈迦様が言うと、弟子の一人が、次のように言いました。

「あの母親は、夫に先立たれ、自分も病気で働けなくなり、住み込み先から追い出されてしまったのです」

話を聞いたお釈迦様は、すぐに母子のもとへ歩み寄り、托鉢（たくはつ）で得たお米を差し出しました。

そして、弟子にこう言いました。

「あの母子の境遇を知っているにもかかわらず、おまえは食べ物を恵んであげようとはしなかった。それは、見て見ぬふりをしているのと同じだ。知っているなら、どうして助けようとしなかったのだ」

お釈迦様も貝原益軒と同じで、行動に移さなければ意味がない。

無知であることと変わらない、と言いたかったのです。

どんなに立派なことを言う人でも、行動がなければ、口先だけの人になってしまいます。

知っていたら、よいことをすぐに行動で、示すようにしましょう。

そんな態度を示すことができれば、誰からも信頼され、頼られる人になるのです。



困難から逃げずに立ち向かおう 806



誰もが困難から、逃げたいものです。

仕事が上手くいかなくなった、商品が予想より売れない、不況で経営が危なくなった、友だちとケンカ別れした、貯金がほとんどなくなった、などの困難な状況が起こります。

そんな時に、その困難から、逃げたいと思います。

困難に立ち向かわなければならない、とわかっているのですが、逃げたいのです。

しかし、逃げれば、本当に心が安まり、上手くいくのでしょうか。

ここでイギリスの劇作家、シェークスピアの名言を紹介します。

**お前は熊から逃れようとしている。
その途中で荒れ狂う大海に出会って、
もう一度、獣の口の方へ引き返すのか。**

この言葉は、イギリスに古く伝わる民話が、ベースになっています。
その民話を紹介します。

ある男が、宝物が埋蔵されているという山に、向かいました。

見つけ出せば、一度にして大金持ちになれます。

しかし、山に向かうには、熊が出没する道を、通らなくてはなりません。

それが怖くてイヤだった男は、別の道を通ろうとしたのですが、その道は荒れ狂う大海に面していて、ここも大変危険です。

そこで、元の道を通ろうとしたのですが、熊が出没することを考えると、怖くてなかなか前に進めません。

そのため、男はとうとう山に向かうことを、断念してしまいました。

シェークスピアの言葉は、「困難から逃げだそうすると、別の形で新たな困難が押し寄せてくる。どこに行っても困難にぶち当たるのなら、初めの困難に立ち向かって、いったほうがいい」ということを、教えています。

人生には、困難があるのはつきものです。

困難から逃れようとしても、どこまでも追いかけてきて、つきまとうのです。

次から次へと、押し寄せてきます。

それなら、初めから逃げることを考えないで、逆に立ち向かって、果敢に克服するように努力した方が、賢明なのです。

困難は、その人の身の丈にあったものしか、やってこないのです。

絶対的に乗り越えられない困難は、ほとんどやってこないのです。

たいていは、乗り越えられる困難なのです。

困難から逃げずに、立ち向かいましょう。

乗り越えるたびに、勇気や自信が増し、ますます大きなパワーを得て、大きな喜びもあるのです。

やれることをやろう 807



不思議なことに、運がいい人がいます。
仕事が上手くいく、いい人と巡り会う、お金が少しずつ貯まる、家族が仲良くなる、夢や目標が叶うなど、運が良いことが起こります。

そんな運がいい人は、特別に何かをしているわけではありません。
自分がやりたいこと、自分に任せられたことなど、やれることをコツコツと、一所懸命にやっているだけなのです。
そのことを多くの人や神様、宇宙が、知っているのです。

ここで、実際にあった話をします。

アメリカであるミュージカルのオーディションを、受けた日本人女性がいました。
その方は、オーディションのために、自分の人生のすべても、お金も時間もぜんぶ費やして臨んでいたのです。
残念なことに、結果は落ちてしまったのです。

彼女は、落ちたとき、一瞬、とても落ち込みました。
しかし、その結果を、自分なりに受け止めて、心を静かに落ち着け、あるがままを「これでよし」としていたのです。
すると、おもしろいことが、起きました。

彼女の魅力や才能を、高く評価していた、その時の審査員の一人から、ある日連絡が入ったのです。
「僕は、君に票を入れたんだよ。しかし、落ちる結果になって、僕はとても残念でしかたなかった。どうだろう、もしよければ、僕の主催するミュージカルに、出てみる気はないか？」と。

それは、最初に受けたオーディションより、格段にスケールが大きく、素晴らしい価値のあるものでした。
しかも、最初に受けたオーディションは、その他大勢の配役として、受けたものでしたが、落選後にやってきたこの申し出は、なんと主役に、大抜擢というものでした。

**すべてのことは、その人の最善に、つながっているのです。
しかし、そのことは、後からしか、わからないものです。**

運がいい人は、本気で自分のすべてを、出し切るのです。
やれることはやった、という経験をする人なのです。

**やれることを毎日、精一杯やりましょう。
すべてが、あなたの努力を見ていて、応援しているのです。
心配しなくても、結果は自ずと後から、ついてくるのです。**

苦しい時のもう一步 820



何かに向けて、チャレンジしている時に、いよいよ苦しくなってくる場合があります。もう少し努力を続けると、上手くいきそうなのですが、いよいよ限界になってきます。

そうすると、あと少しかも知れませんが、もう一步が出ません。明るい希望は見えているようなのに、苦しい時のもう一步が出なくて、とうとう挫折してしまいます。

- あと一回、営業先に顔を出せば、契約が取れたかもしれない。
- あと一日、実験を続ければ、成功したかもしれない。
- あと一晩、勉強をすれば、何とか合格点まで、届いたかもしれない。
- ダイエット中に、あと少し甘い物を我慢すれば、ダイエットが、成功したかもしれない。

このように苦しい時に、もう一步踏ん張れば、良い結果になったかも知れません。どんな時にも、必ず苦しい時は、やってくるのです。

ここで、石油を掘り当てて、莫大な富を手にした人が、次のような話をしていました。

100メートル掘れば、石油が出るとします。でも、掘っている最中は、もう99メートルまで進んだのか、まだ30メートルしか進んでいないのかが、わかりません。実際には、あと1メートルのところまで掘っているのに、そこで掘るのをやめ、見切りをつけてしまう人が、数え切れないほどいます。

なぜなら、掘り始めよりも、目的に近くなったときのほうが、明らかにつらいからです。掘っていくにしたがって、精神的な疲労がたまり、資金や人の協力も、厳しさを増してきます。

休んでもいいから、掘り方を変えて、とにかく掘り続けることです。そうすれば、いつか100メートルに、到達することができます。いつ100メートルに、達するのかわからない未知の世界に、挑戦するから価値があるし、おもしろいのです。

この話は、苦しく厳しくなった時こそ、石油が出ると信じて、もう一步踏み出すことの大切さと、おもしろさを教えています。

苦しい時に、どう一步踏み出して、前進していくかが、本当の勝負なのです。

どんなに苦しい時も、決して諦めずに、もう一步踏み出せる自分に、なりましょう。きっと多くの夢や目標が叶えられ、成功を手にすることが、できるでしょう。

学んだことをすぐ行動に活かそう 836



生きていく上で学ぶことは、とても大切なことです。
いろいろなことを学ぶことで、自分が高まり成長します。

- 今日は、たくさんのことを、学ぶことができてよかった。
- いつか学んだことを、やってみたい。
- 学んだことが、役に立つ日が、くるかもしれない。

このように思う人が、多いと思います。
しかし、これでは、自己満足や希望的観測に、終わってしまいます。
アメリカの発明家は、みな事業家です。
ただ発明しているだけでは、多くの人から評価されません。

エジソンは、発明家だけでなく、社長でした。
ビル・ゲイツも、コンピューター・プログラマーだけなら、これほどまで評価されなかつたでしょう。
エジソンやビル・ゲイツの素晴らしいところは、学んだことを現実に、活かしているということなのです。

日本においても、松下幸之助・本田宗一郎など有名な人は、発明家であり、行動力が旺盛で、事業家でもありました。
役に立つと思ったことを、積極的に実践につなげて、発展されてきたのです。

**学ぶことで大事なことは、「オッ、これやってみよう」と、すぐ行動に活かすことです。
いつか行動する、というではありません。
すぐ行動に活かすことが、大事なのです。**

- ☆今日友だちから学んだことを、今日行動に活かす。
- ☆電車の中で、本で学んだことを、電車から降り、今日行動に活かす。
- ☆トイレの中で、ひらめいたことを、今日行動に活かす。
- ☆グループの情報交換で、学んだことを、今日行動に活かす。
- ☆新聞を読んで、学んだことを、今日行動に活かす。
- ☆現場で学んだことを、今日行動に活かす。

このように、今日学んだことを、今日行動に活かすのです。
もちろん今日中にできない場合は、明日行動に活かせばいいのです。
学んだことは、すぐ行動に活かさないと、意味がないのです。

**学んだことを、行動に活かさない人は、学ぶことが目的になっているのです。
学ぶことは、行動に活かすための手段です。**

**行動しながら、いろいろなことを学んで、学んだことをすぐ行動に、活かしましょう。
学びと行動の両輪で、実践の前進と深まりが、生まれるのです。**

何のためと聞かずに動こう 837



人から、「～して下さい」と、言われた時に、どのように思いますか。

- どうして私が、しないといけないの？
- 一人だけで、しないといけないの？
- いつまでに、しないといけないの？
- 言われたことをすると、いいことがあるかな？

このように、思ってしまう。
そうすると、何のためかなど、理由がわからないと、なかなか動こうとしません。
このような人は、行動力があるとは、言えないのです。

アメリカ航空会社のパイロット採用テストを、紹介します。

パイロットの採用テストがあります。
アメリカでも、リクルートスーツを着ます。
面接官は、「集まっていたきまして、ありがとうございます。これからショートパンツを配りますから、これに皆さん、履きかえてください」と言って、配ります。

それが派手な柄の、ショートパンツなのです。
この時に、「なんのためにこんなものに、履きかえるんだ」と、怒る人もいます。
そういう人は、「大変失礼しました。どうぞお帰り下さい」と、言われます。
それが、テストなのです。

**「何があるの？」と、思いながら、履きかえた人は、合格です。
チャンスをつかめるのは、何のためと聞かずに、動く人なのです。**

まじめな人は、「何のために」と、言います。
まじめな人ほど、言うことを、聞きません。
何のためにやるのか、わからなければ、動かないのです。

ノリの良い人は、フットワークが軽く、まず動きます。
臨機応変な対応が、できるのです。

**何のためと聞かずに、とにかくまず、動きましょう。
動けばそのわけも、自ずとわかるのです。**

危険防止のABC 852



道を歩く人が、道路を渡るとき、右、左を見たつもりになって、車は来ないだろうと思ったり、車は止まるはずだと思って、自分勝手に渡ると、どうなるでしょう。

これは、大変危険です。

自転車に乗る人も、曲がり角で見ないで、待たないで、止まらないで、通り過ぎたらどうなるでしょう。

考えただけで、背筋が寒くなります。

ここで、二つの標語を紹介します。

(歩行者向け)

危険です

見たはず

来ぬはず

止まるはず

(自転車向け)

曲がり角

見ます

待ちます

止まります

標語から、思い込みで行動しないこと、安全確認をすることを、学ぶことができます。

ここで、安全のための「危険防止のABC」を紹介します。

安全は

A あたりまえのことを

B ぼんやりしないで

C ちゃんとやる

A、B、Cは、それぞれの言葉のローマ字の頭文字です。

安全のためには、あたりまえのことを、ぼんやりしないで、ちゃんとやるのが、危険防止になるのです。

「立ち止まる」「右・左をしっかりと見る」「気をつけながら、さっさと渡る」など、あたり前のことを、一つ一つ確実にちゃんとやれば、歩行者・自転車の交通事故は、防げるのです。

この危険防止ABCは、自動車を運転する場合にも、有効です。

工場などの危険な作業場などでも、効果があるでしょう。

常に危険防止のABC「あたりまえのことを ぼんやりしないで ちゃんとやる」を意識して、安全な生活をする、と、大きな事故に出会う可能性は、小さくなるのです。

指差し呼称で安全を確認しよう 856



駅で運転手さんや車掌さんの様子を見ていると、安全を確かめるために、いつもしていることがあります。

電車が駅のホームに入って、電車を停車させると、運転手さんは、運転席の機械などを指しながら、「よし」「よし」と言って、ホームを出ます。

そして、電車の行き先や番号などを指さして、「よし」と言って確認します。

運転手さんは、ホームを通過して、屋根のパンタグラフなどの様子を確認しながら、前の運転席に行きます。

車掌さんは、車両の中の忘れ物などを、確認しながら後ろまで来て、さっき運転手さんが、確認したことを、もう一度繰り返します。

このような確認のことを、「指差し呼称（ゆびさしこしょう）」といいます。

この言葉は、「指で指して、言葉で言いなさい」という意味です。

確かめるものを指でさすことで、指先に全部の注意が集まり、声に出して言うことで、確かめが確実にできるのです。

- | | |
|--------------|-----------------------------------------|
| ①確認する対象を見る | ※対象に視点を定める（例えば、降り口を見る） |
| ②確認する対象を指で指す | ※指で指し、対象のみに視覚を集中する
（指先の降り口に、意識を集中する） |
| ③指さしたものを声に出す | ※対象の名称を声に出す（「降り口」と声に出す） |
| ④安全の有無を声に出す | ※安全の有無を確認し声に出す（「よし」と声に出す） |
| ⑤言った言葉を耳で聞く | ※言った言葉を耳で確認する（耳で安全を再確認する） |

このようにして、毎日の安全に、気を配っているのです。

指差し呼称を行うことは、確認の精度を向上させ、作業への意識を高めて、ミスを減らす有効な手段なのです。

誤りの確率が6分の1になり、効果を上げていることも確認されています。

指差し呼称をすると、見て指を動かす動作や自分の声を耳で聞くことで、脳の覚醒がされ、注意力が高まります。

惰性に陥らず、意識的に確認するには、有効な方法なのです。

この指差し呼称は、医療現場や危険物取扱工場・会社などでも利用できます。

また、日常的に自分の家や自分自身のことにも、利用できます。

私も「水道 よし」「電気 よし」「ストーブ よし」「戸締まり よし」と外出の際に、指差し呼称を実践しています。

すると安心して、出かけることができるのです。

油断から、大きな火災・災害や事故などが、起こります。

指差し呼称で、常に安全を確認して、心配のない生活が、できるようにしましょう。

自分で必ず判断しよう 861



世の中で、活躍している人の特徴が、あります。
それは、自分で考え、自分で判断している人です。

日常的に考え、判断することが、習慣化しているのです。
しっかり熟慮し、的確に判断できるのです。

自分の判断を、人が否定する可能性があっても、自分の判断を、主張することが、できるのです。
それだけ責任が、伴います。

世の中で、活躍できない人の特徴が、あります。
それは、自分で考え、判断しようとしません。

日常的に人の考えに、同調するだけなのです。
責任を負うのが、怖いのです。

ここで、トヨタ自動車元社長、石田退三さんの言葉を、紹介します。

トヨタでは、「獅子（しし）の子教育」という手を使って、社員を鍛える。
（獅子の子教育とは、「獅子は、わが子を千尋（せんじん）の谷に、落として鍛える」という、故事からの言葉です）
自然、自分の信念を、持つ社員が多くなる。
それが昇格して、再び後輩をしごく。

いわゆる「付和雷同（ふわらいどう）」型は、まず評価されない。
一番嫌われるのが、「盲従型」社員。
自分の意見というものが無い。
命令すれば、一応そつなくこなす。
他社はいざ知らず、トヨタでは絶対に、出世できない。

部下が、問題解決の四つの方法をあげて、「課長、決裁」も、まだダメである。
「いちいちオレに聞かずとも、自分でこうやりたいと、なぜ言わんのか」
万事が、この調子である。
いきおい骨っぼい社員が、揃う。

**この言葉は、自分の信念を持ち、考え判断することの重要性を、教えてくれます。
判断の善し悪しを、気にする必要は、ありません。**

**とにかく、物事を自分で、しっかり考えましょう。
そして、最終的に自分で、必ず判断しましょう。
このことが、自分の信念を高めることでも、あるのです。**

肩書きをもっと輝かせよう 865



日本人社会は、肩書きが、好きな社会です。

いたるところに、肩書きが、あります。

例えば、一般的な会社では、次の様な肩書きが、あります。

一般社員、主任、係長、課長、次長、部長、本部長（事業部長）、常務取締役、専務取締役、代表取締役社長など、役職は多岐にわたります。

もちろんこれらは、あくまで呼称に他なりません。

極論を言えば、存在しなくても、組織は成立するのです。

しかし、なぜ役職が、あるのでしょうか。

役職や序列を、明確にすることに、大きな意義があるからです。

まず一つに、その人物がどのような人か、分かりやすいという点が、挙げられます。

その人物が、何の業務における上司なのかが、明確になるのです。

これは、肩書きの名称で呼ぶ周囲・本人ともに、メリットとなります。

役割を自覚することで、やるべき仕事や責任感が、はっきりとするでしょう。

また役職には、序列があります。

自分の現在地が分かれば、次はどの肩書きを目指せばよいのか、自覚できるでしょう。

目標意識を持たせる上でも、効果的となるのです。

肩書きの意義はあるのですが、肩書きがあれば、それに甘んじていいわけでは、ありません。

成績が悪ければ、課長から係長に、降格される場合もあるのです。

イタリアの政治学者マキャベリーは、次の名言を、残しています。

「肩書きが、人間を持ち上げるのではなく、人間が、肩書きを輝かせる」

この言葉は、肩書きにしがみつるのは止めて、肩書きに恥じない仕事・それ以上の仕事をすれば、肩書きが輝き、それに見合った力を持つようになることを、教えているのです。肩書きを、輝かせることが、できるかどうかは、人間しだいなのです。

「ボクは係長ですから、係長以上のことは、遠慮します」と言って、係長という肩書きのカラに閉じこもって、首だけ出している人がいます。

かと思うと、係長なのに、「課長、私がやっておきますよ。課長はもっと上の立場で、見ていて下さい」と、どんどん課長の仕事を、やってのける人もいます。

そんな人は、「彼は、係長では惜しいね。次の人事異動では、課長だね」と、上司から認められるのです。

せっかくいただいた肩書きです。

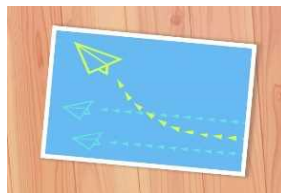
その肩書きをフルに活用して、部下や上司を巻き込み、積極的にどんどん仕事をしましう。

肩書きのカラを破り、それ以上の仕事をしましう。

そうすれば、マキャベリーの言葉のように、もっと肩書きが、輝いてくるのです。

肩書きがあなたに、大きな力を、与えてくれることにもなるのです。

誰でも火事場のバカ力はある 869



自分の能力は、高いと思っていますか、それとも低いと思っていますか。
高いと思っている人は、それでいいと思います。

低いと思っている人は、自分には、今まで以上の能力はある、と思って下さい。
誰でも、今自分が持っている能力以上の力が、あるのです。

ことわざに、「火事場のバカ力」があります。

これは、「火事の際に、自分にはあると思えない、大きな力を出して、重い物を持ち出したりすることから、切迫した状況に置かれると、普段には想像できないような力を、無意識に出すこと」のたとえです。

自分には、絶対できないようなことが、いざという時には、それができるように、なるのです。

人は、想像できないような、もっともっと大きな力を、持っているのです。

ある女性の話です。

彼女には、5歳になる子どもが、いました。

その子どもと一緒に、街を歩いている時、ビルの建設現場を、通りかかりました。

子どもは、彼女よりも、ずっと前を歩いていた、その時です。

ゴーンという大きな音が、頭の上の方から聞こえ、見上げると前を歩いている子どもの上に、落ちてきそうだった。

彼女は、「危ない！」と叫んで、次の瞬間には、走り出していた。

そして、子どもに追いつくと、子どもを抱きかかえて、安全な場所に逃げた。

幸い二人にケガは、ありませんでした。

女性は、この事件のことを、次のように語っています。

「今になって、不思議でしようがないことが、あるんです。それは、あの時、私はどうしてあのように速く走れたのか、ということです。私は、もともと足が遅いのに、あの時は、信じられないようなスピードで、走ることができ、そのおかげで、子どもを助けることが、できたのです」と。

このことは、なにも不思議なことでは、ありません。

「あの子を助けなければ」、という強い意志が、思いもかけない能力を、発揮させたのです。

誰にでも、不可能を可能にする、奇跡の力が、あるのです。

自分には、火事場のバカ力がある、と強く信じて、自分の無限の能力を、引き出しましょう。

今の現状でできることを努力しよう 878



自分が置かれている現状を、嘆き悲しむ人がいます。

- こんなくだらない仕事なんて、やってられない。もっと自分の才能を、生かせる会社へ転職したい。
- こんなに給料が安いのなら、あまり仕事を、頑張る必要はない。
- あの人と一緒にいたのでは、私は幸せになれない。もっと自分の思い通りにできる、別のパートナーのもとへ、行きたい。

このように、不平・不満を、言う人がいます。
不平・不満を、言い続けても、何一ついいことは、ありません。

不平・不満を、言うような人は、別の仕事を見つけたり、別のパートナーとの出会いが、あったとしても、またそこで同じように、不平・不満を、言い始めるのです。
思い切って、今の現状を変えても、結局は同じような結果に、なるのです。

今自分が、置かれている現状を、選んだのは、自分の責任なのです。
自分で考え、自分で決めて、今の現状に、自分がいるのです。

ここで、道元禅師の言葉を、紹介します。

**魚は、水から離れず、
鳥は、空から離れることは、ありません**

この言葉は、「魚は水の中で、生活に満足し、空を飛びたいとは、思いません。鳥は一生懸命に、空を飛ぶことに集中し、水の中を泳ぎたいと、考えません。そのように人間も、自分が現在いる環境の中で、やるべきことに集中して、全力を傾けなさい。そうすることでしか、自分の人生を、切り開いていくことはできない」と、教えています。

今の現状から、逃げようとするのは、止めましょう。
不平・不満を言っても、ますます気持ちが、落ち込むだけです。

**今の現状の中で、できることを、努力しましょう。
今できることに、集中しましょう。**

**今の現状が、あなたが活躍できる、場所なのです。
あなたが輝き、明るい未来が、開ける場所なのです。**

まず自分が動こう 886



社員が、一生懸命仕事をしない職場が、ありました。
様子を見ていたら、社長がのんびりしていて、あまり働いていませんでした。

社長は、社員にやる気を出すような言葉を、話します。
しかし、言葉だけでは、社員は働こうとしないのです。

社員が、働かない理由は、簡単です。
社長が、あまり動かないから、社員も動かないでいいのだと、思っているのです。

ここで、**連合艦隊司令長官・山本五十六の名言を、紹介します。**

**やってみせ
言ってみせて
させてみせ
ほめてやらねば
人は動かじ**

この名言は、第1に「やってみせ」を、述べています。
自分が手本となって、まずやってみることが、人を動かす大切なことなのです。

**赤字会社の再建を頼まれて、見事に再建を果たした、社長がいました。
その社長が、再建の秘密を、次のように、話していました。**

「二宮尊徳の教えに、従ったままです。尊徳はある人に、人使いのコツを聞かれたとき、桶に水をいっぱいみなぎらせ、棒きれで水をグルグルと回しました。やがて水がひとりで、回りはじめますと、棒きれを水の上に、のせました。すると水は棒きれをのせて、一緒に回ったのです。水は社員です。棒きれは、社長です。社長が最初自ら回れば、やがて社員が、社長をのせて、回りはじめます。いうならば率先垂範を、しただけです」

**この社長は、率先垂範（人の先頭に立って、物事を行い、模範を示すこと）が、大切であることを、教えています。
まず社長自ら動けば、自然と社員も、動くようになるのです。**

**このことは、社員であっても、同じことです。
まず自分が、積極的に動きましょう。
進んで自ら動くことで、周りの人も、動き始めるのです。**

**もし今、周りの人が、動いていないなら、あなたが、動いていないのかもしれませんが。
自ら動くことでしか、道は開けてこないのです。**